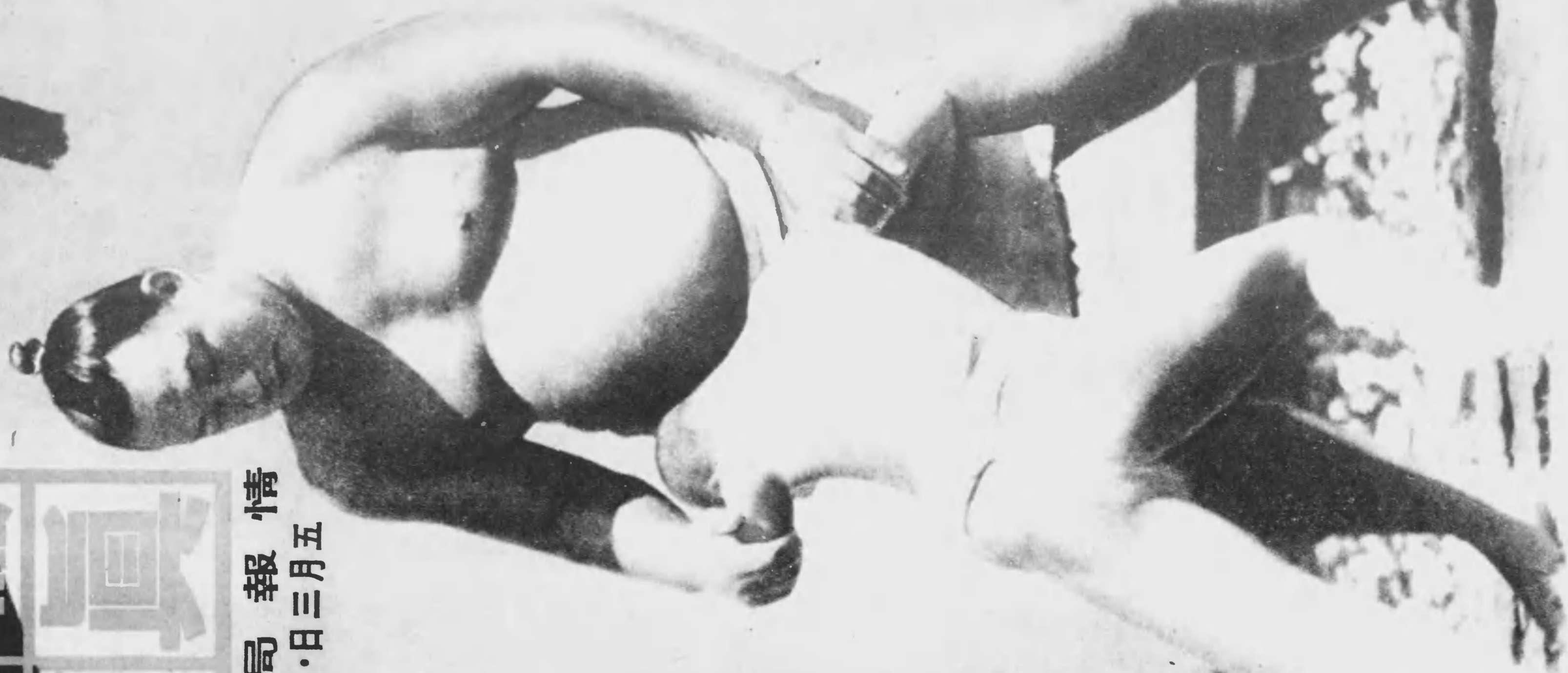


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

時 刻 立 札

五月の空に手を伸ばせ
緑の風に胸を張れ
強いからだ 明るい心
勝ち抜く力がぐんと湧くぞ



元組取の巨體の山葉双綱横
元組取の巨體の山葉双綱横
元組取の巨體の山葉双綱横

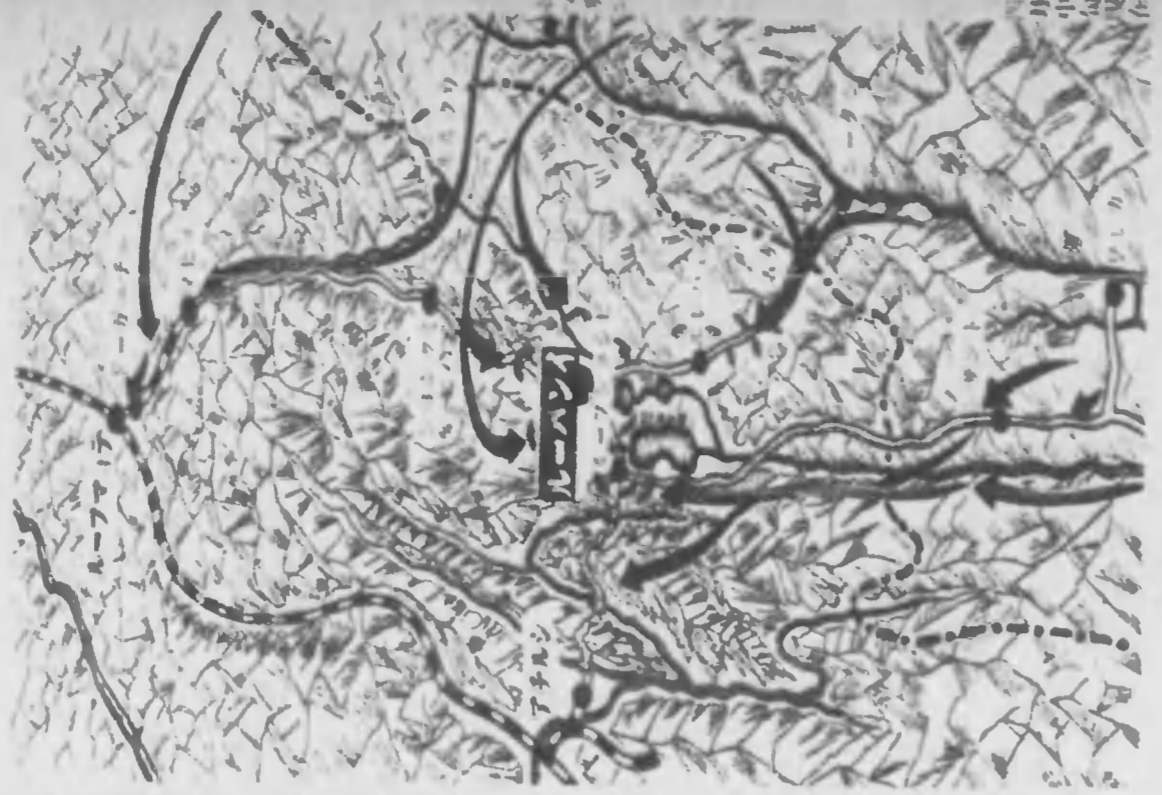
週報 眞實

情 報 局 編 輯

五 月 三 日 第 三 一 九 號



印の戦作全



一、印緬國境交通路の概要

印緬國境にはベトカイ山脈、チン丘陵、アラカン山系等の峻険地帯あり、その陸上交通は地勢上トドからアキヤン地帯を経てミートキーナに出る北方の所謂レド公路、インパール平野からカレワ附近に出る中部交通路及び、海岸に沿ひアキヤンに出る局部交通路の三つに限られてゐる。従つて國境附近の攻防戦は以上三方面で起るは當然と言ひらる。

一昨年自軍に迫りまくられた敵が退却したのもやはりこの三方面で、爾後我軍對して運次戦雲を帯んで来た。

二、インパール作戦の起るまで

以上の情勢下で最も交通の利便な南方海岸方面で、先づ戦線の動いたのも當然といへよう。緬甸軍を呼喚すること久しかつた敵が、マウントペワテンの東南アジア軍司令部に就任直後起つたアキヤン軍団作戦は、昨年の春にはゆるアラカンの急襲として終止符が打たれた。

ついで戦線を開始した英江正西軍軍に對し戦を見るに敵は自軍は昨年十月上旬から先制攻撃を遂行、之に鐵槌を加へた。かくて同方面の總司令部陣地は敵を解するの止むなきに至り、その策動は完結されたわけである。

さらに十月上旬以来アキヤン地帯に突出して来てレド公路の打斷に開始になつてゐる英印軍軍及び英米海軍艦隊に對して引離き防衛に出る作戦を實施しつつある。

本年に入つて、再び勢を張り返して来た敵軍方面ブダオン、モンドウ正西の敵に對して二月上旬東勢を發した英軍は英印第七師團主力カランヤイックに續進してアラカンの急襲を再演し、この方面に敵十五旅團の全力を引寄せ、次を起つたインパール作戦の開始を遂行し、相次いで進軍引離き戦況は有利に展開しつつある。

これに呼應してカラダン河谷を南下して来た大内隊第八十一師團に對する攻撃も既に既述

に近く、且つ(四月中旬)その敵軍をサベントワに向ひ進軍中で、特にこの方面における印度國民軍の勇戦は稱讃に値するものがある。

三、インパール作戦

一昨年の緬甸急襲作戦で中部印緬國境方面に逃げ込んだ敵は、その後、敵軍陣地を構築すると共に兵力を増強し、インパール、ペレム等には航空基地をも建設して逐次行動は活性化して来た。これに對して英方面の自軍は三月上旬自軍の開始し、印度國民軍と共に英々印度海軍の大空を切つた。しかも、その作戦發起は二つの段階に分れてゐる。即ちまづ三月八日トランサン、カム正西から行動を起し、



敵は陣地を構築するにともなく砲撃を、我軍は遂に陣地に迫るが勇士

英方面にインパール方面の英印第四軍團を率領し、次で三月十五日更に兵力を強固にして其の北方マラン山北の嶺で、突如チンドクイン河を急襲し、敵の意表をつきソムラ高地地帯の陣地を崩壊して、四月六日には早くもインパール平野に突進した。この作戦を攻撃し英印第四軍團を孤立せしめた。

現在(四月中旬)インパール平地には英印第四軍團の第十七、第二十、第二十三、師團及びその急進に懸け付けた第四十二師團の四師團が完全に陣地を築いたが、他國境内にあり、コヒマを占領した自軍は既にアラマフト平野の陣地を築き出してアキヤン、ベンガル地帯を指すの間に陣地を築いてゐる。大勢既に決したのであるが、インパール平地の防衛陣地は敵が天候の悪化に二年有半の日を費し營々構築したもので、我軍の同年進軍出までの力もさることながら進軍後も敵が續くものと見なければならぬ。

四、北緬陸軍部隊に對する作戦

レド公路の早急な行動は英方陣地を破り三月上旬以来カキヤン地帯にクワイアで交通路を築かせしめ、緬甸印軍を襲撃してこれに對して英方陣地を築かせしめ、四月中旬にはその兵力一處を奪取るに至つた。

後方守備に當つてゐる英軍は緬甸國境を以て其の主力の手に落ちたことに對する攻撃を開始した。同所所長クワイアトや將は既に戦死し、インパール作戦の進展に伴ひ敵軍の補給路に當つてゐる交通路もインパール方面に開かざるを得なくなつた。我が軍と相俟つて敵は逐次進軍に陥りつつある。

五、印緬國境の雨期と作戦との關係

印緬國境方面は道々雨期に入る。雨期には各方面とも作戦行動を大に阻害せられる。本格的雨期は半年にあつてはアキヤン地帯は五月末、インパール附近は四月末、海岸方面は五月下旬からとなつてゐる。

しかし幸ひにもインパール平地に對する我が方の爲にはチンドクイン河の結氷があり、カレワ附近からは敵の作つてくれた道路により補給には大して支障がない。

これに反しアキヤン地帯の敵に對しては、同地帯は雨期化し作戦行動が不可能なだけでなく、陸上からの補給が困難するのは勿論、雨期までには多分の軍需品は準備するであらうが、敵は進軍すればするほど苦しくなつて来るわけである。

六、マウントペワテンに残された道

かく見て来るとマウントペワテンに残された道は海軍作戦しかないといへる。いふまでもなく敵はコマンド部隊の出身であり、最近

その司令部をタリリからセイロン島に移したといふ。アキヤン附近海岸、ニコバル、アン



英軍に對する敵の偵察行動が最近逐次活性化して来たのも事實である。

しかし印度洋は南太平洋と異なり、島嶼に乏しい。昔は後方には海軍作戦のために利用すべき陸上基地が多い。敵等が先づアキヤン軍團を全滅したのも、海軍作戦を實施せしめ、英軍三隻艦隊を捕へ、マリス海軍の襲撃を蒙り、インド國民軍が近くは緬甸の境、領土山河いざ、チャロ、チロ!

んとする訓練だつたとも見得る。各陣地に強力な航空基地を展開してゐる自軍に對し、敵が海上機動部隊のみを以て上陸を企圖するも、たやすく成功すると思はれない。

しかしながら現地が部隊は凡ゆる事象に備へ、待つあるを待む態勢にあることは勿論である。

七、インパール作戦の意義

緬甸軍団作戦の首尾、とくにインパール作戦に對する反響は最近とみに表面化し、英米將相互の論議も露骨化して来た。今インパールの死命を懸せられ、アラマ、ベンガル地帯は我が軍の脅威に晒され、スチルウェル地帯のフリーコン地帯の敵軍、在英米第十四航空軍の補給を断たれんとして敵の進軍は阻むべくもない。

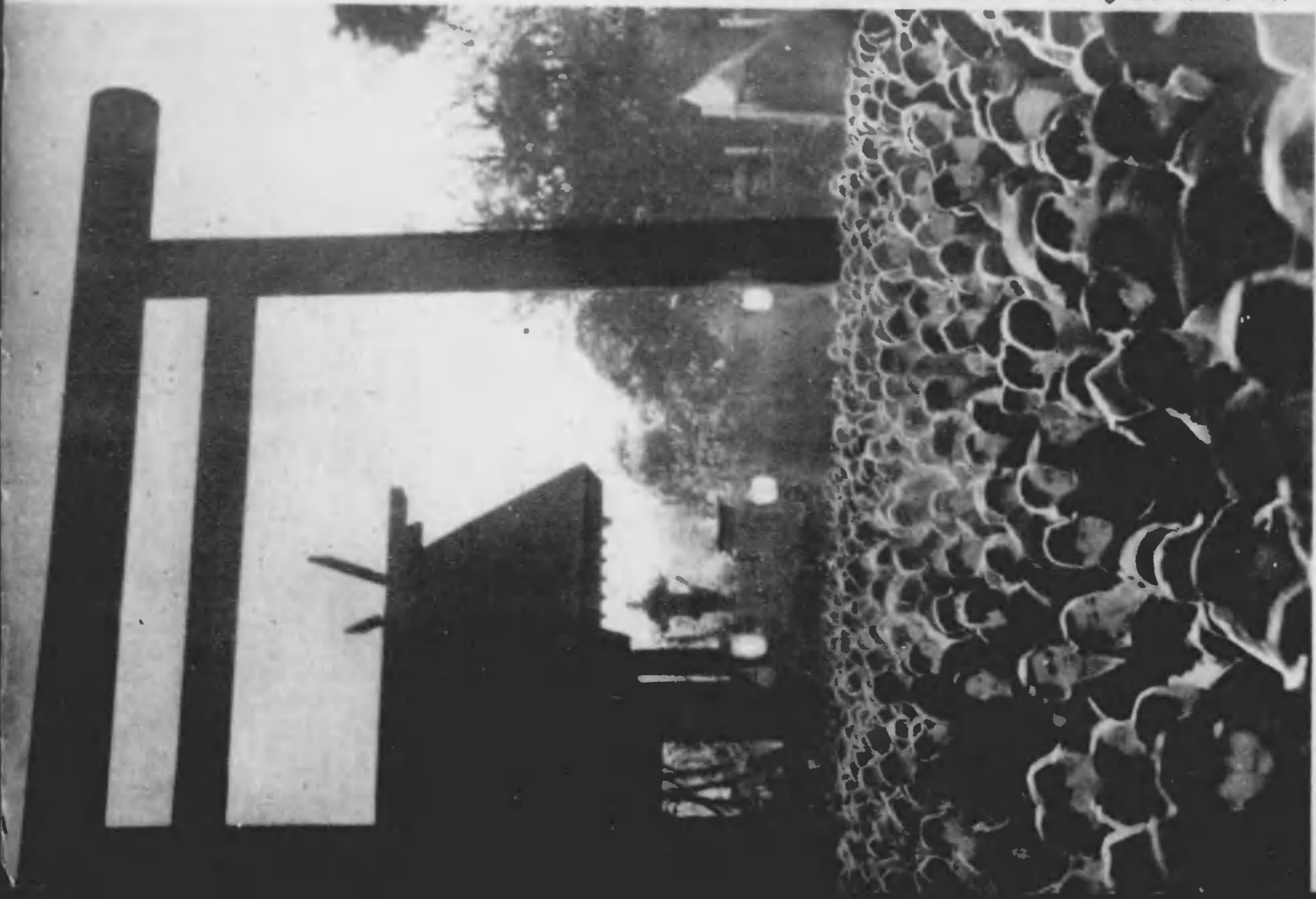
印度國民軍の豪々たる祖國への進軍、ボース首班の二次に亘る聲明等により印度國內の情勢は騒然たるものがある。議會に於ては増徴案その他を擲り去り、さる十四日にはボンベイ船中の船中の大爆発事件あり、チゴタージュは各地に勃發せんとする風潮あり、アラマ、ベンガル地帯の守備は遂に兵兵を以て置き換へられた。それにもまして密國の印度解放に對する公正な態度は大東亞宣言の實踐に外ならず、大きな反響を呼びつゝある。敵國側と雖もこの事實の語には目を覆ふわけには行かぬ。

大本營陸軍報道部



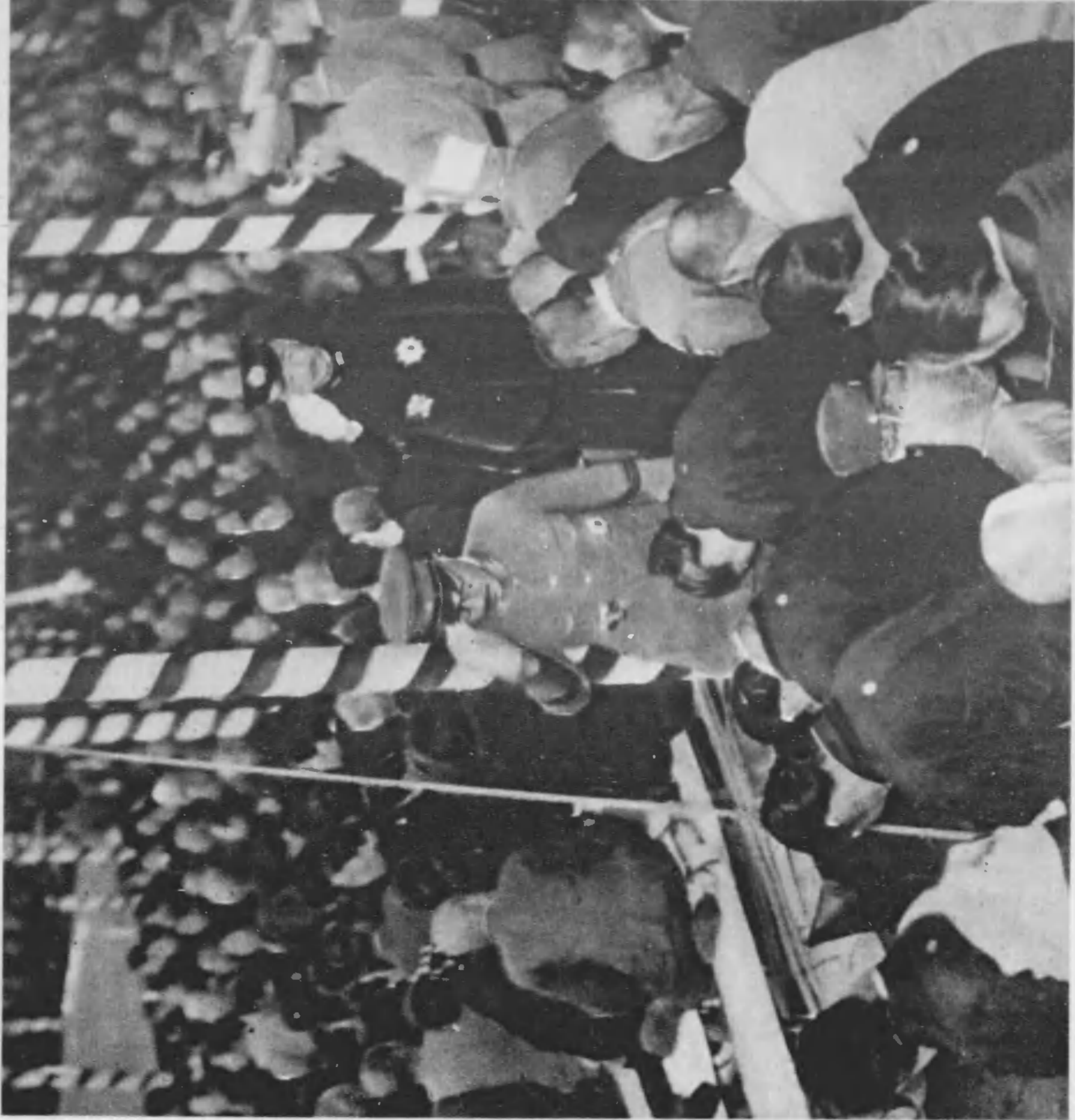


外陣神武旗に参列する儀仗兵
相模の儀を持つ運兵



靖國のみやしろ深く
英魂二万五柱新たに神鎮まる
靖國神社春の臨時大祭

東京朝日新聞社
昭和十一年四月
東京朝日新聞社
東京朝日新聞社



相模の儀に参列、それと各集会所の運兵に接する東條陸軍大臣、島田海軍大臣

通問記

四月十七日、比島獨立に對する謝罪の表明と日動、若徳さかりに放つて勇武四海に轟く
比親善強化のため、閣會議長ベニグノ・エセ、
アキノ氏が特派大使として來朝した。大東亞條
條の完遂を目指して、日比の契はますます固い
×
四月十九日、敵機動部隊突如スマトラ島に上陸し、わが所在部隊の補給をうけた。東條
印度の版圖を掃蕩せんとする南英勦滅の一策、
×
大東亞條下五たび迎へた靖國神社春祭臨時大祭
は四月二十三日相模の儀に引續き儀仗隊を
導く神國の神域に執り行はれた。新祭神二萬五柱、
旗幟下特に参列の遺族の上にかかりさせ給ふ聖座
のほども多く東邊生祭に輝いて武勳永に香る

戦空防の家がわ

馬蹄い夜空をきつて、照
空煙が交錯する。うわん
くと、敵機の爆音が近づ
いて来る。高射砲弾の物凄
い唸りと炸裂。どかーん、
どかーん。地軸をゆする敵
の爆撃、爆風に建物はゆら
ぐ、瓦は落ちる……
これは、近くわたしたち
が必ず経験しなければなら
ぬ現実です
さうだ。空襲は必至だ
用意はよいか。心構へは
できてゐるか。わが身、わ
が家の防空態勢は完全か

何時敵機が来ても、この位のことは迅速、確實に出来るよう
それぐわが家の防空訓練計画を樹て、必ず實施しませう

意用のんだふ

水——十五坪未満の建物なら百リットル
(約五斗五升)以上、十五坪以上なら約十
坪につき五十リットル(約二斗八升)の備
ひ増やす。水道の水は経路が露分され
れば使はなから、と定んからあらゆる容
器に水をためておき使用に備料の所に配置
する

防火用資材——砂または土五十リット
ル(約二斗八升)以上を測つて捨ける分と
袋に入れて捨ける分(二升づつ)に分
けておく。雑、吹の扇、救急箱、注水用ベケツ
か手桶、シャベルか鍬、火鋸、火口(な
ければ長棒)木柄杓など

待避所——いつでも使へるやうに、悪い
場所を直しておく。深さはしやがんで頭の上
が三十センチ(約一尺)位あく程度。開放
式なら上に傘を置くか濡れなどを遮つたり
して落下物を防ぐ

家屋内外の整理——押入、戸棚等の雜
物をし履掛、床下にある燃え易い物を片
付けておき、なるべく隣家との通路を遮る

家族の用意
防火管制用具、防火、煙火管制などにつ
いて家族の任務を定めておく、主人外出中
の時の指圖ははつきり主婦に示しておく

防空用服装

白い着地、または紙片、及びほろ
ろろの服装とあり合せのものを買
八センチ、袖六センチくらいにし
て作る。暑風なら上着の上で縫り
の裏返しつかり縫付け、また紙や
材料ならば、ボケアトへいつり入
れておく

氏名	年齢
住所	
職業	
所属機関名と身分	
官公署、学校、工場など	



袋常非



必ず入れておきたいもの

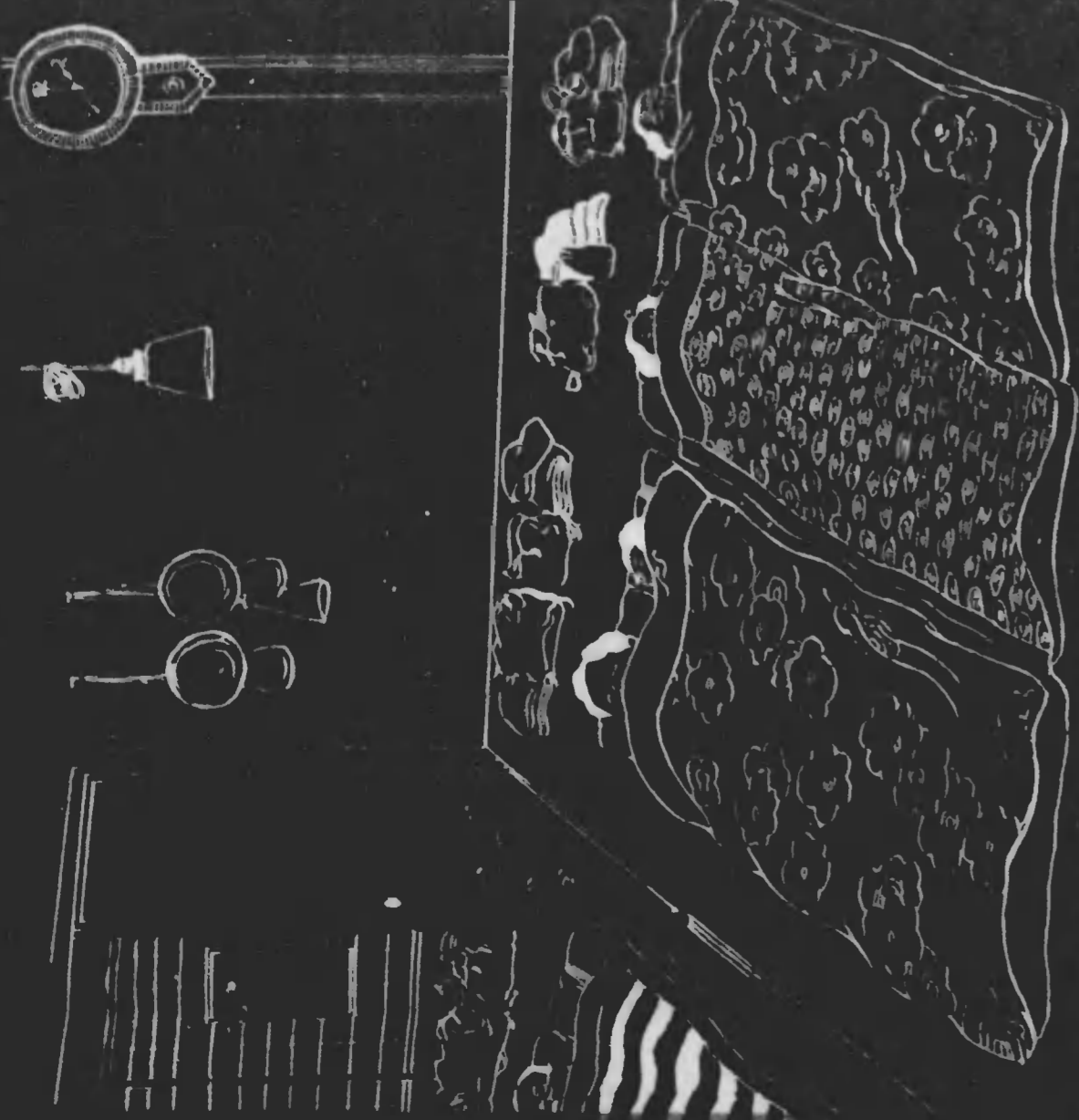
非常袋の重さは大人なら十キロ
(約二貫五百匁) 子供なら五キロ
(約一貫二百匁) 以内とし、必ず
住所氏名のついた名札をつける
非常袋にはランドセルかリュック
バックを備ふか、風呂敷なら紐を
つけ背負へるやうにする

その他出来れば入れておく

提灯、商標子、鉛筆、薬書、手帳
水筒、懐中電灯(乳児用)など
油紙、三角布、綿布、ガーゼ、股
指綿など
機織、襪、履、おむつなど

重要書類、印鑑、針、糸、鉄類は
それぐ一まとりとして小さい袋
に入れておく
救急資材は別に一まとりとして携
行してもよい。米は一人につき二
日分位(約五合)米袋に入れる

午前二時空襲警報發令



おばあさんは

ぼくたちは

坊やも、目を醒ませ。空襲だ。それ、防空服
着ろ。頭巾をかぶれ。急げ！急げ！

まづ、飛煙になる寝床を片付けよう
これはお母さんの交代ち

ガスは元栓をしめる

火元の始末が肝心。おばあさんはもう一度念
入りと断念

ボースがあれば、水道の蛇口をしっかりと
つける

襲來機敵

待避！
待避！



それ、待避だ。敵が片方ないワ。手探りではなか／＼見つからない……こんなことのないやうに、出来るだけ屋内を整理し、機銃などもきちんと揃えておくこと



恐れず、あわてず。隠れ、隠れ、隠れ、隠れ……空襲の被害もさることだが、こんな及ぶことの外傷も多いと考へられる。ふだんの訓練が大切だ



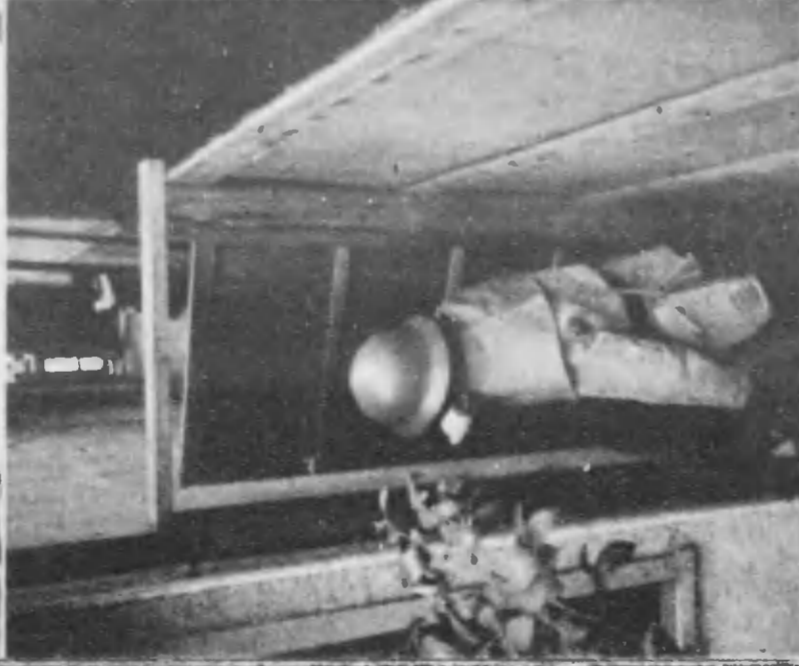
あつ、しまつた。十分点検したつもりだが、この切符の自備車が外に出し放さし、それに置いて、すつてんところ……準備はば、念を入れよ

待避
二秒以内

さあ、戦闘配置は、きつた
あつは、日頃の思ひ見せ
るのだ。敵の機銃から
わが家を守る。待避する
る。国を守るのだ



家の中の機銃や障子を取りはづして邪魔にならない所は片付けるか、開放する



門、食庫、物置などの鍵をはづし隣家との通路を断れず開放する

七分以内

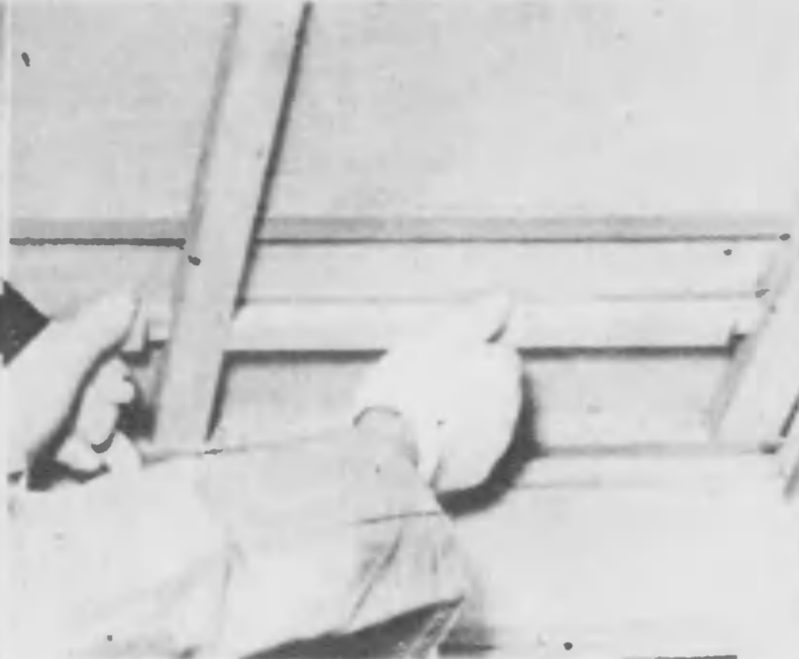
十分以内



お父さんは

暗闇の中で、迅速にまた空襲に防空限界を越えることが大切だ

三分



用戸やガラス戸の鍵を必ず外す隣家に接しないガラス戸は、なるべく取りはづす



か、開放する。開放した場合、用戸や障子がついておれば、ガラス戸のある部分だけをはやく

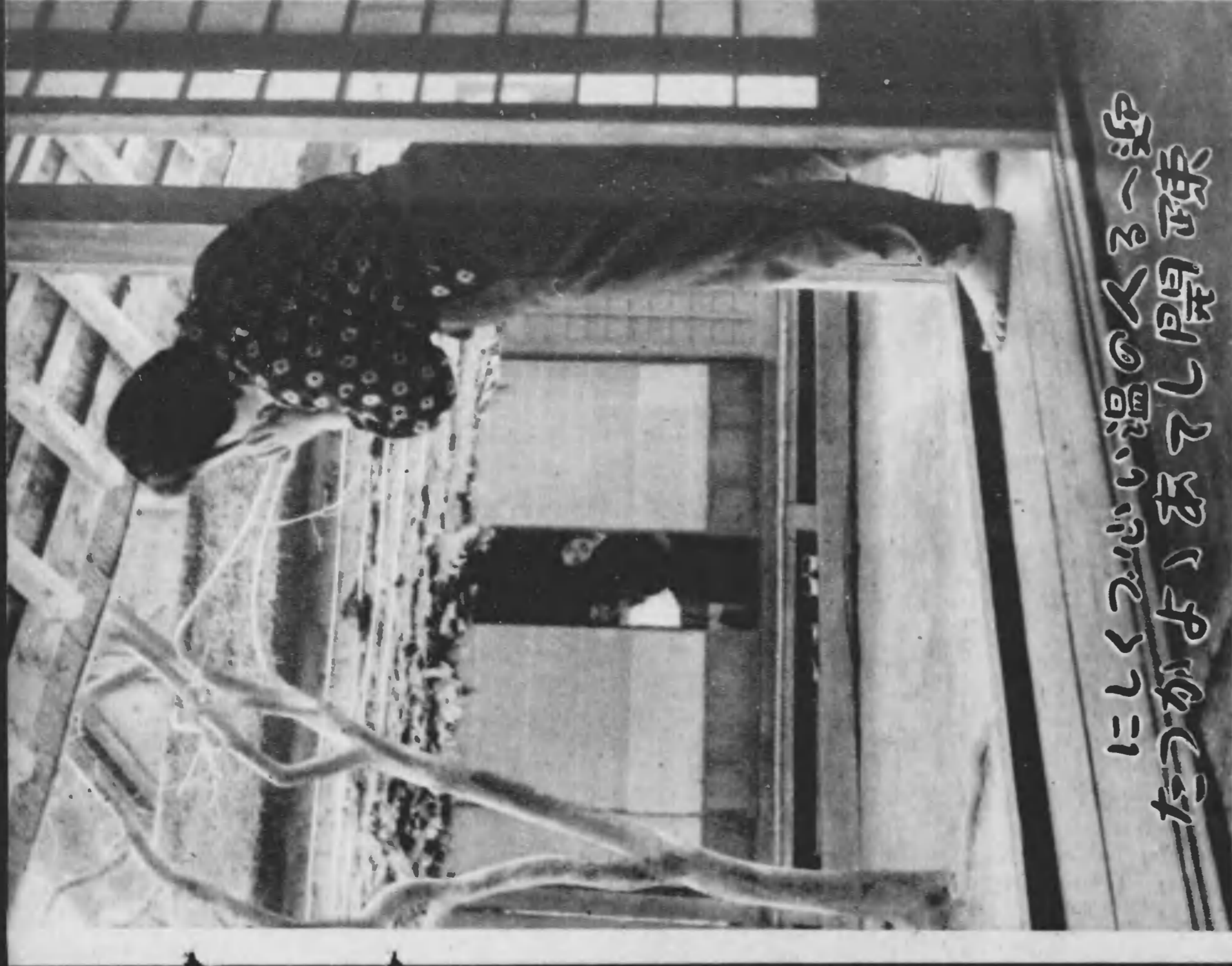


お母さんは



十分以内

五分以内
待避所へ



にしくつ、心い温のくるへ迎
たづかよ、あまし開疎

まづいものでもらうから一匹、言葉一方の言辭恐しで
さあ、何の気遣いもありませんよ、物事も近所の人たち
に測んでもらって身振に漸らしい郷土の土を聞んだその
後他人行儀を捨てたにた楽しい開闢がうらつく

がが土瓦敷を近所づきあひのおしるしに
心もあら村人になりきつて組内への挨拶
まはり、郷土へ贈けとむ心辨へが郷落の
人たちにも身近かな印象を刻みこむ

「姉さんお風呂があきました
「姉さんお茶をいただきます
置寮を改築した陣のひと間、不便な生活だが、
陣落の人たちの親切が心細さをなくしてくれる



山梨縣陸合村

「雨降さへ渡ればたとへも小屋でも」といふ
疎開者のしつかりした心辨へ「手をとつて心細さを
なくしてやる」受入側の温い思ひやり。それさ
へあれば疎開の受入れは必ずうまくゆく
同じ日本國民が日本國內に疎開するのである。
しかもこの疎開によつて都市の防衛は鞏固となり
同時に日本全體の實力が増強されるといふのであ
れば文句のあらう筈はない

富士身振線内結野を山あひへ西に人る山梨縣の
陸合村は、その名が平手やりに昔から村々輪が一つ
つに詰み合つてもかごとといふものを知らない和
やかな村であるだけだ。三月十五日を期して疎下
一斉に開かれ疎開受入れのまごころ常會でも村
の人たちの意見はみんな同じだつた。「お國のた
めに勤めねば犠牲を忍んでくる人たちが、氣持よく
迎へ入れて一緒に仲良く働かう

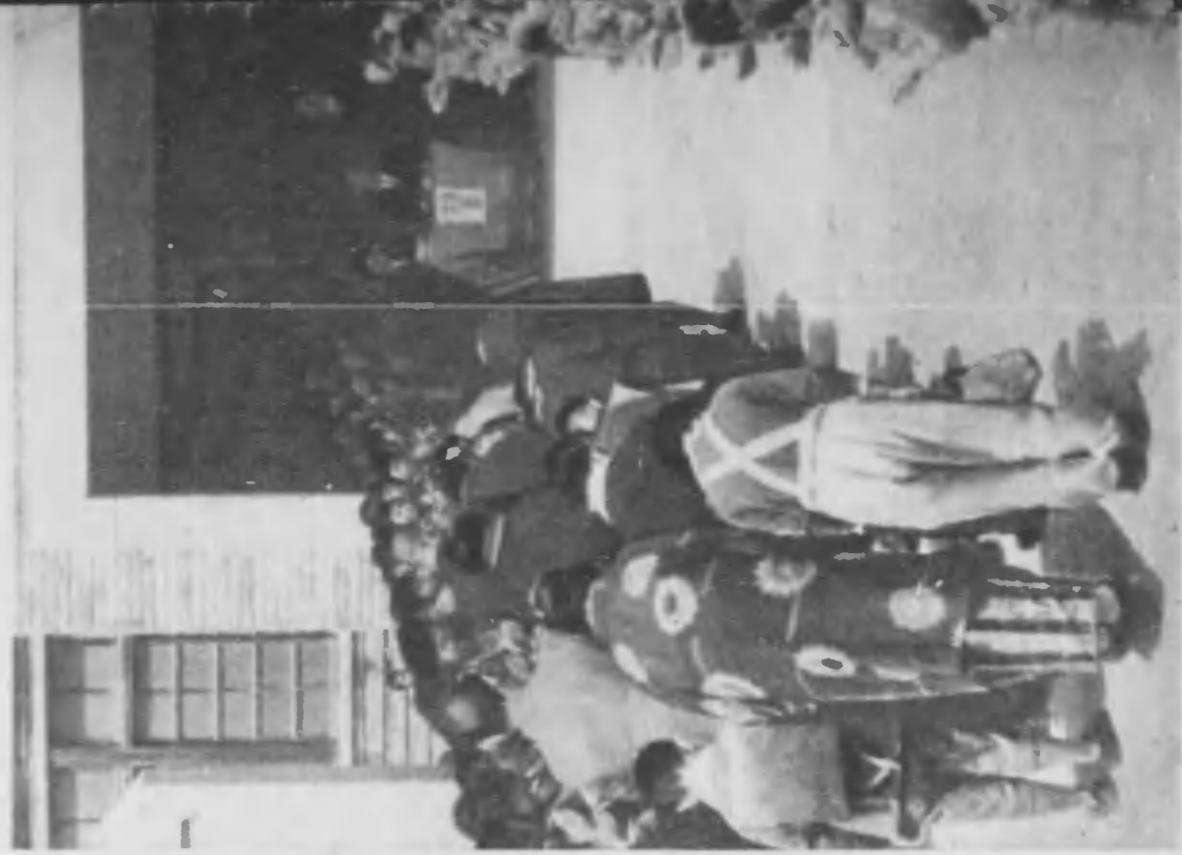
その日から、酒場が改築される、郷落に仕切戸
が立てられる、置寮の一部が取片付けられる。村
役場の疎開者収容室設置は春陽に伸びる麥畑のや
うにぐんぐんと伸びて行つた

そしていま、四十一年四月十九名の犠牲者を
呼び寄せたこの村は、さらに健びく逞しく農村と
しての健全さをいよく強化して春の増産に邁進
してゐる

「疎開は勝つための機關配置である」疎開する者
に受入れる者にこの正しい認識のある限り疎開の
受入れは必ずうまくゆく、その一例を陸合村の現
地報告に附してみる

「無は近づく事はなせは...
知らぬ土情でも住んでみれば情は自然にうつるも
の。自分自身の準備もできて土に親しむきのふけ
ぶを、置寮の主人にも知らせます」

「おいそれとはいかぬが、置寮ほどに準備さ
れてゐない田舎の配新機は精神一杯の好意にち
がひない。疎開者をまごつかせるやうなことのな
いやうに置寮配給の仕組みもできてゐて」



「けふから僕らもお仲間」地元の良い汁をた
の拍手に迎へられて疎開準備の入院式。村の
名所の案内や置寮のすむところは、良い子
たちの魂は早くもしつかりと結ばれる



「わらび、ぜんまい、いたどりなど、春の野草の
勢清ひ。けふは在生に連れられて地元のあま
と地元の土に育つては、良い子
の教育は光のお蔭

